

## 日本人二世画家の図案が切手に

平 岩 道 夫(切手評論家)

日本人二世画家の手になる図案の切手がアメリカで発行されているのをご存じ？

1966年10月5日、アメリカでは、国土美化運動を記念して“より美しいアメリカのために木を植えよう”という標語入りの5セント切手1種を発行したが、この切手にはワシントンの西ポトマック公園にあるジェファーソン記念館をバックに、日本から贈られた桜の木の太枝が描かれている、という変わりダネ(写真)。

ジョンソン大統領が呼びかけた“自然美化キャンペーン”にこたえて発行された切手である。

この切手の印面寸法は、横37ミリ、縦22ミリで、緑、ピンク、黒の3色凹版。1シートは50枚構成。発行枚数は1億2千万枚。

ところでこの切手の原画作者が、日本人二世画家として知られるミス・ギョー・フジカワ(藤川堯女史)とあって、注目を集めた。

女史は1960年にアメリカで発行された“日米修好百年記念切手”の図案者でもあり、ニューヨークに住み、現在もフリーの画家として活躍している人。

かつては20世紀フォックスなどで図案を描いていたが、その後は広告や子どもの本のデザインなどを専門に描いている。

1960年5月23日、東京・日比谷の日米修好百年記念祝典が行われた席上、マッカーサー大使(元師ではない)が、アメリカ初



代郵政長官と同時発表の形で、

「日本の皇太子がわがワシントンを訪問する」

と語り、拍手をもって迎えられた。

もっともアメリカの切手は9月28日に発行され、一方、日本では9月27日同記念小型シート1種を発行した。

この小型シートは、幕府が日米修好通商条約を結ぶため、アメリカに使節を送ったが、勝海舟や福澤諭吉ら90名をのせて太平洋をみごとに乗り切り、サンフランシスコに到着した「咸臨丸」と使節一行の「米大統領引見の図」を描いた切手2種を組み合わせたもので、切手はこれより前の5月17日に売り出されていた。

アメリカの4セント切手には、ワシントン記念碑をバックに、桜の枝と花が描かれたが、この桜は東京市長だった尾崎行雄氏が贈ったといういわくつきのもの。この切手も実は藤川女史が描いた図案というわけである。

それにしてもアメリカの切手に、わが日本女性の手になるものがあるとは、まことに快挙というべきであろう。